

## 観光基盤整備事業

評価報告：2001年3月

現地調査：2000年7月

### 1. 事業概要と円借款による協力



#### (1) 背景：

インドの外国人旅行者数は 1981 年に 85 万人に達した後、伸び悩んでいたが 1986,87 年には 108 万人、116 万人と急速に増加していた。また、外国人旅行者数では、日本、タイ、マレーシアの約半分であったにもかかわらず、外国人旅行者の平均滞在日数が長いことなどから、日本・タイに匹敵する観光収入を得ていた。

インド政府は今後の観光産業のポテンシャルは高いと考え、1985 年より実施された第 7 次 5 ヶ年計画（1985 年 4 月～1990 年 3 月）のなかで、外国人旅行者数の伸びを年 7% にすることを目標として様々な観光政策を掲げていた。

本事業対象地域である U.P(ウッタルプラデシュ)州およびビハール州は、釈迦ゆかりの仏跡に恵まれているものの、サルナートを除き観光客数は横這い状態にあった。その大きな要因は各観光地へのアクセスのための道路交通施設、観光地での快適性確保のための給水・配電施設などの観光基盤が未整備であって、観光客の不便をかこっていた上に、観光資源そのものの景観整備が不十分なことにあった。

#### (2) 目的：

数多い仏跡に恵まれる U.P 州およびビハール州の観光関連インフラストラクチャーの整備を行うことにより、当該地区の観光業を活性化し地域産業振興を図るとともに、関係住民の生活水準の向上を目指すもの。

#### (3) 事業範囲：

事業内容は U.P 州及びビハール州における仏跡観光地の観光関連のインフラ整備を行うもので、具体的には①道路・橋梁の整備及び旅客輸送車輛整備、②休憩施設の建設、③仏跡の景観整備、④水道・配電設備の整備である。なお、円借款対象は外貨全額および内貨の一部である。

#### (4) 借入人/実施機関：

インド国大統領／観光省

(5) 借款契約概要 :

円借款承諾額／実行額	9,244 百万円 / 6,617 百万円
交換公文締結／借款契約調印	1988 年 10 月 / 1988 年 12 月
借款契約条件	金利 2.5%、返済 30 年(うち据置 10 年)、部分アン タイト
貸付完了	1999 年 1 月

## 2. 評価結果

(1) 計画の妥当性 :

インド政府は高い観光のポテンシャルを活用することを目的とし、第7次5ヶ年計画(1985年4月～1990年3月)において以下のような観光振興政策を進めていた。

- ・ 観光地へのアクセシビリティの確保、民間投資の誘い水のためのインフラ整備
- ・ 観光地への利便、魅力増加のための遺跡修復、保存、修景、公共施設拡充

本事業はこれら観光振興政策に則ったものであり、計画は妥当であった。また、アプレイザル時の1987年に年間116万人であったインドへの外国人旅行者数は、1998年には年間229万人におよんでおり依然としてインドの貴重な外貨獲得手段になっており、本事業目的は現時点でも妥当である。

(2) 実施の効率性 :

1) 事業費

本事業では、州政府の予算支出が遅れ、工事の開始および進捗に影響を及ぼした。外貨については、乗用車・バス等が自己資金で調達される等インド政府の計画変更等により、実績はアプレイザル時の約半分(6,471百万円→3,343百万円)となっており、円借款対象部分については、貸付承諾額である9,244百万円の71.6%にあたる6,617百万円に留まっている。

2) 工期

本事業はアプレイザル時の計画では1992年6月に完了する予定であったが、実際に工事が完了したのは1998年6月であり、計画に比べ6年の遅延が生じている。遅延の理由として、①詳細設計作成に時間を要したこと、②事業実施は12機関、41事業に及んでおり、複雑な実施体制と各機関の思惑の違いから、各機関の調整と個別事業の承認に多くの時間が必要となったこと、③一部コントラクターの技術レベルが十分でなく工事が遅延したこと、等が挙げられる。

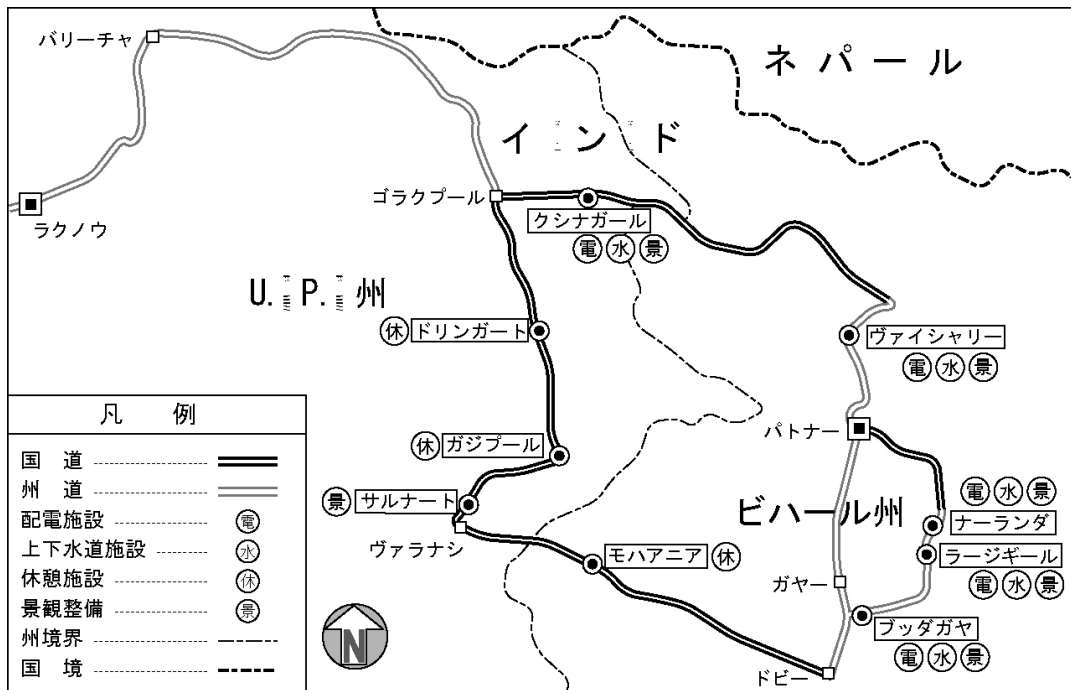


図-1 プロジェクト位置図

### 3) 効 果 :

#### 1) 仏跡観光客の利便性向上

本事業では U.P 州、ビハール州の国道の 446km、州道の 781km の拡幅および路面舗装の改良を実施すると共に、両州合わせて新たに 9ヶ所に、両側 2 車線の橋梁を新設することにより、観光地間の交通の円滑化と移動時間の短縮に貢献している。

また、サルナート、ラージギールなどの各遺跡においては、幹線道路から遺跡へのアクセス道路および園内道路の拡幅と再舗装が合計 27.3km に亘って実施されたことにより、遺跡へのアクセスおよび遺跡内の移動が容易になった。

また、クシナガール、ラージギール、ナーランダー、バイシャリー、ブッダガヤの 5 地区において行った水道設備と配電設備の整備は、観光客に十分な水と電気を供給し、観光客が滞在する際の快適性向上に貢献している。このうち、U.P 州のクシナガールでは配電設備が 15,000 世帯に電力を、水道施設は一日当たり 650 万 m<sup>3</sup>の浄水を 31,600 世帯に供給している。また、各観光地に設置された公共水道には国内外の巡礼者<sup>\*1</sup>が立ち寄り、飲料水としてだけでなく、衣類の洗濯、体の洗浄などにも多目的に使用されている。

本事業においては、サルナート～クシナガール間のドリングアート、ガジプール、サルナート～ブッダガヤ間のモハアニアに休憩施設を建設している<sup>\*2</sup>。各施設は、18 の寝室、100 人収用のレストラン、厨房、トイレ、駐車場、前庭と噴水などを備えている。これら休憩施設は、主に日本人ツアー客を含む外国人観光客に利用されている。このうち、モハアニアの休憩施設では年間約 5,400 人がレストランを使用しており、ガジプールの休憩施設では、年間約 1,500 人が宿泊施設として利用している。

\*1 ラージギールは仏教だけでなく、ヒンズー教、ジャイナ教の聖地でもあり、同地にはインド国内から多くの巡礼者が訪れている。

\*2 現在同区間は、本事業を含む道路状況の改善により、通行時間は短縮されたが、それでもなお移動には 10 時間程が必要となっている。

## 2) 観光客数の増加

表-1は本事業対象地区を訪れた観光客数の推移を示したものである。

地区によっては、年度によりデータを提出するホテルの件数が異なるため、年度毎の観光客数に変動が見られるものの、概ね増加していることが読み取れる。観光客数にかかわるデータが十分に整備されていないため、事業完成後の全般的な観光客数の増加が今次事業の効果によるものかどうかについては、なお1～2年の観察期間を要し、この意味でIRRの再計算は行っていない。

表-1 事業対象地区の観光客数の推移 (単位：千人)

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
バイシャリー*1	3.7	3.2	17.8	16.3	21.6	37.3	64.8
ナーランダ*1	146.5	151.1	152.1	154.3	154.9	318.1*3	959.8*3
ラージギール*1	529.4	597.1	11.2	56.6	283.6		
ブッダガヤ*1	407.9	331.5	135.5	139.9	118.8	98.6	345.3
サルナート*2	N.A	1349.4	1459.4	1605.4	1765.9	1942.3	2136.7
クシナガール*2	N.A	59.4	76.4	84.0	92.4	101.7	111.8

\*1 出所：ビハール州観光局、\*2 出所：U.P 州観光局、\*3 両地区の観光客数合計

## 3) 仏跡周辺の景観改善

本事業では、各観光地のブッダガヤやサルナートなどの園内の緑化や入場門の建設、バス待合室の建設などが行われている。例えばサルナートの場合、事業実施前には殆どの地面は土がむき出しのままになっていた。本事業では、景観整備として遺跡公園内の地面を芝生で覆い、園路をブロック舗装し園路沿いに植栽を行った他、植樹、花壇の整備、池の周辺の修景などを行い、園内の景観を大幅に改善している。

## (4) インパクト：

### 1) 事業地域の地域の産業振興

事業対象地区における、観光関連収入のデータは整備されていない。ここでは、比較的信頼できるデータの整備されている U.P 州のデータを使用して、U.P 州のサルナートおよびクシナガールの観光収入を推計した。

ここで、両地区を訪れる観光客の支出額が、U.P 州を訪れる観光客と同じであると仮定した場合、両地区の観光産業による収入は表-2 のとおり、クシナガール、サルナートとも増加していることが分かる。これら観光客数の増加や観光収入の増加は、同地域における観光関連産業の振興および雇用促進に貢献しているものと思われる。

表-2 U.P 州事業対象地区の観光収入推計値 (単位：百万 Rp)

	1994	1995	1996	1997	1998
サルナート	836.9	866.5	955.2	1052.3	955.7
クシナガール	36.8	45.4	50.0	55.1	50.1
両地区合計	873.8	911.9	1005.1	1107.4	1005.8

\* 上記観光収入は、消費者物価指数を用いて 1995 年価格表示したもの。

## 2) 対象地区の生活水準の向上

本事業による道路・橋梁の整備は、周辺の商業都市へのアクセスを容易にし、農産物の市場への輸送の迅速化にも貢献している。また、水道の整備により、対象地区及びその周辺の住民に安全できれいな水を供給することができるようになり、地域住民が水を汲

むために使用していた時間が減少した。

また、配電設備の設置は、プロジェクト地区の電化に貢献すると共に、バスストップや街路に設置された街灯により、夜間、より安全に外出することができるようになった。このように、本事業で整備された、道路・橋梁、配電施設、給水施設などの基礎インフラは、観光業だけでなく、これらインフラ整備の遅れていた事業対象地区の住民に広く便益をもたらしている。

### 3) 社会・環境へのインパクト

本事業の実施において、U.P州、ビハール州とも道路、橋梁の拡幅により環境への影響及び住民移転は多少あったものの、いずれも小規模で特段の問題は発生していない旨、実施機関側から聴取している。

## (5) 持続性・自立発展性：

### 1) 運営・維持管理体制

施設の維持管理は、基本的に事業実施を担当した機関が行っている。各施設の運営・維持管理担当機関は以下の通りである。

表-3 運営・維持管理担当機関

	U. P 州	ビハール州
国道路	公共事業局 (U.P. State Public Works Department)	公共事業局 (Bihar State Public Works Department)
州道路	公共事業局 (U.P. State Public Works Department)	公共事業局 (Bihar State Public Works Department)
上下水道施設	州公共保険局 (Public Health Engineering Department)	州公共保険局 (Public Health Engineering Department)
配電施設	U.P 州電力会社* (U.P. Power Corporation Ltd.)	ビハール州電力公社 (Bihar State Electricity Board)
景観整備	森林局 (Forest Department)	森林局 (Forest Department)
休憩施設	U.P 州観光開発公社 (U.P. State Tourism Development Corp. Ltd.)	ビハール州観光開発公社 (Bihar State Tourism Development Corp. Ltd.)

\* クシナガールの街灯は、市街地運営委員会(Town Area Committee, Kushi Nagar)が維持管理を行っている。

### 2) 運営管理予算と維持管理状況

水道、配電施設の運営管理予算は、水道・電気料金の他に州政府からの補助金により賄われている。また、休憩施設の維持管理を担当している両州の観光開発公社は、国営ホテル・休憩施設の経営、レンタカー、ツアーの開催などで得る収入を施設の維持管理費に充当している。その他、道路、景観整備事業の維持管理費は全て州政府から予算が配分されている。

U.P 州の場合、本事業のために 1999 年度の実績で 5.0 億ルピーの予算が配分されている。そのうち 2/3 が、元本および金利の返済に充てられ、残りの 1/3 が施設の維持管理費に充てられている。本事業の維持管理を担当している機関に対して行ったアンケートの結果によると、U.P 州では景観整備事業の維持管理を担当している森林局を除くと、施設の運営・維持管理費は概ね充足しているとの回答となっているが、ビハール州の場合、森林局以外の全ての機関が運営・維持管理費が不十分であるとの回答結果となった。

ビハール州は政治的に混乱しているうえ、州の財政状況が悪化していることが、各機関への予算支出に悪影響を及ぼしていると思われる。

そのため、ビハール州では、配電設備のスペアパーツが十分でないことから、1999年から安定した電力供給を行うことができなくなる地区があり、水道施設の一部も電力供給の不足により度々使用できなくなるなどの問題が発生している。

上述のように、U.P 州では各施設の維持管理は良好に実施されている。一方、ビハール州では、財政難により特に電力・水道供給の面において一部問題が見られる地区もあるが、全般的には、現段階では施設維持管理は概ね適切に実施されていると評価できる。但し、中・長期的な本事業の持続性・自立発展性を保持するためには、維持管理予算不足の解消が必要となる。

#### 主要計画／実績比較

項目	計 画	実 績
①事業範囲	道路の整備(国道 407km、州道 900km) 橋梁建設・改良(10ヶ所) 休憩施設の建設(3ヶ所) 道路脇の休憩施設の建設(3ヶ所) 休憩施設関連の調達(電話、暖房施設など) 通信設備 旅客輸送車両の調達 (乗用車 150 台、バス 40 台) 水道設備の整備(5ヶ所) 配電施設の整備(5ヶ所) 景観整備(6ヶ所) コンサルティング・サービス(計 296M/M)	国道 446km、州道 781km 9ヶ所 実施せず(民間で別途整備) 3ヶ所。但し Hisua は Mohania に変更。 実施せず(民間で別途整備) 実施せず( ) 実施せず( ) 同左 同左 同左 計 654M/M
②工期	1989年1月～1992年6月(42ヶ月)	1988年10月～1998年6月(116ヶ月)
③事業費		
外貨	6,471 百万円	3,343 百万円
内貨	15,131 百万円 (1,544 百万 Rp)	5,019 百万円 (1,547 百万 Rp)
合計	21,602 百万円	8,362 百万円
うち円借款分	9,244 百万円	6,617 百万円
換算レート	1.0 Rs=9.8 円 (1988 年)	1.0 Rs=3.2 円

出所:インド観光省資料